

令和6年度 第3回東海市子ども・子育て支援会議 当日配布資料

「東海市こども計画 素案」修正部分掲載

P9

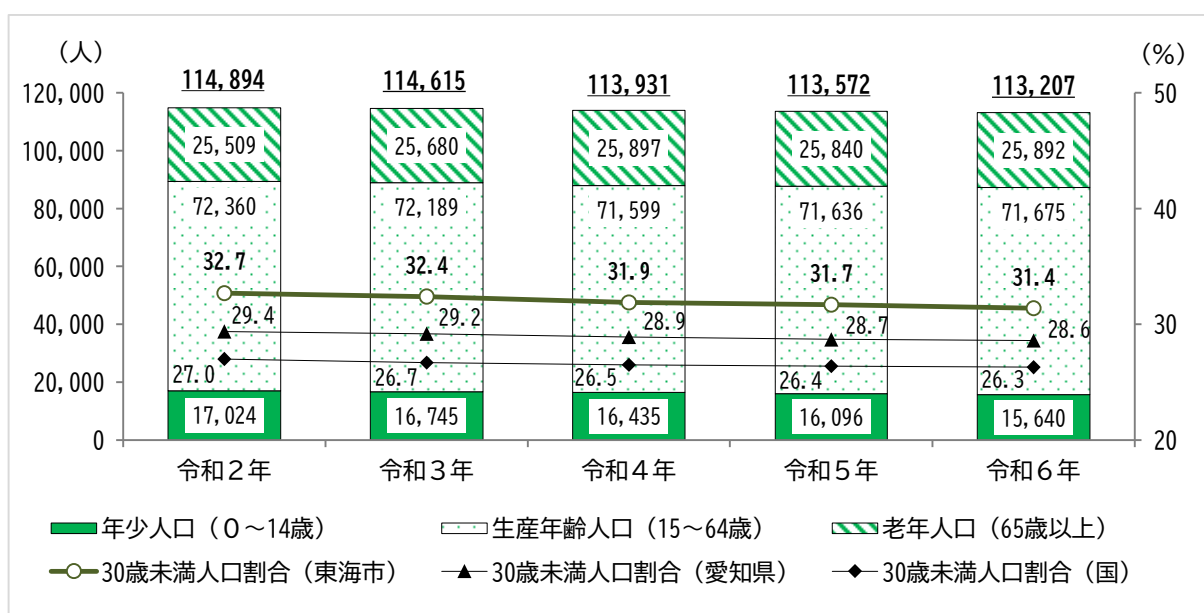
第2章 東海市のこども・若者や子育てをとりまく現状と課題

1 東海市の現状

(1) 人口の推移

⇒グラフの差し替え

図表 年齢3区分別人口及び30歳未満人口割合の推移（国・県との比較）



資料：（市）住民基本台帳（各年4月1日現在）

（国・県）住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年1月1日現在）

P11

(2) 世帯の状況

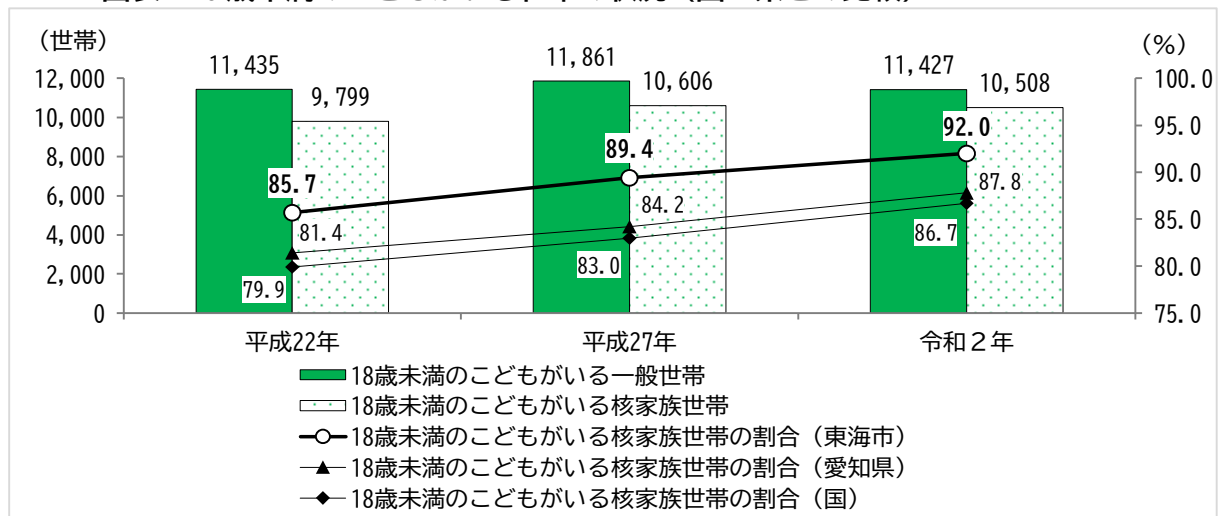
①一般世帯の状況

⇒項目の削除

②18歳未満の子どもがいる世帯の状況

⇒グラフの差し替え

図表 18歳未満の子どもがいる世帯の状況（国・県との比較）



P12

③6歳未満の子どもがいる世帯の状況

⇒項目の削除

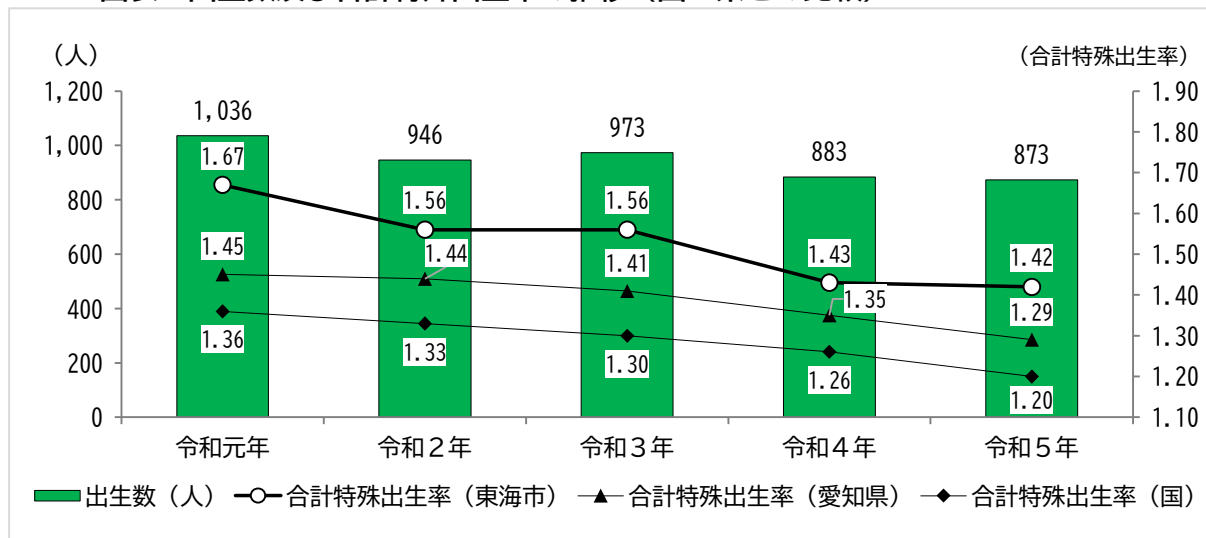
P13

(3) 出生の状況

①出生数の推移②合計特殊出生率の推移

⇒文章及びグラフを結合

図表 出生数及び合計特殊出生率の推移（国・県との比較）



資料：健康推進課

※合計特殊出生率：15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値で、仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとした場合の平均のこどもの数を示します。

P14

③母親の年齢（5 歳階級）別出生率の推移

⇒グラフの削除

P15

(5) 就業の状況

- ①女性の年齢別就業率の推移
⇒グラフの削除

P17

(6) 教育・保育サービス等の状況

- ③待機児童の推移
⇒グラフの削除

(7) 放課後児童クラブの状況

- ①放課後児童クラブの状況
⇒項目の削除

(7) 就学援助の状況 を追加

①就学援助率の推移

本市の就学援助率（要保護及び準要保護児童生徒数を公立小中学校児童生徒数で除して算出した割合）は、令和元年度（2019 年度）及び令和3年度（2021 年度）以降は 10%以上 15%未満で推移しています。これは県内他市町村と比較して高いカテゴリーに属しています。

図表 就学援助率の推移

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
東海市の就学援助率	10%未満	15%未満	10%未満	15%未満	15%未満

資料：文部科学省「就学援助の実施状況」（各年 7 月時点）

P21、P22

2 アンケート調査結果からみえる現状

(2) 子育て支援に関する調査

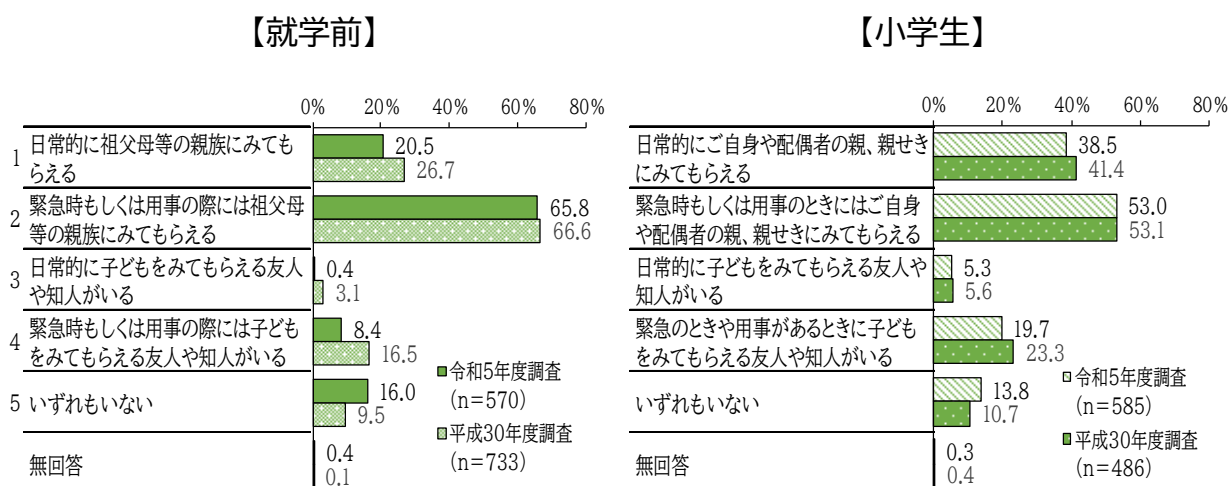
■こどもが病気やケガで通常の事業の利用ができなかった経験の有無

■こどもが病気やケガで通常の事業の利用ができなかった場合の対応

⇒を削除し、以下のグラフを追加

■日頃、面倒をみてもらえる人

- 日頃こどもの面倒をみてもらえる人について、緊急時もしくは用事の際に親族・親せきにみてもらえる人は就学前で 65.8%、小学生で 53.0%、日常的に親族・親せきにみてもらえる人は就学前で 20.5%、小学生で 38.5%でした。また、「いずれもない」と答えた人は就学前で 16.0%、小学生で 13.8%でした。



(3) こどもの生活状況に関する調査

■悩み事

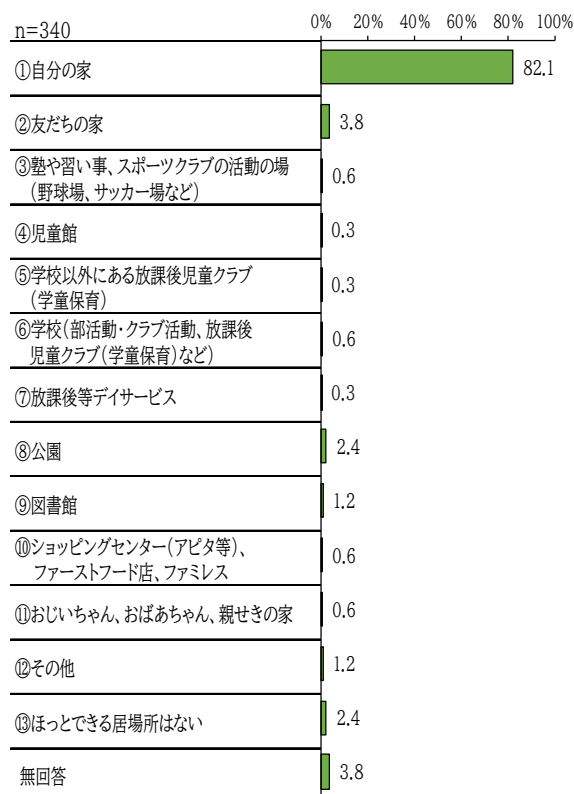
■悩み事を相談できる人

⇒を削除し、以下のグラフを追加

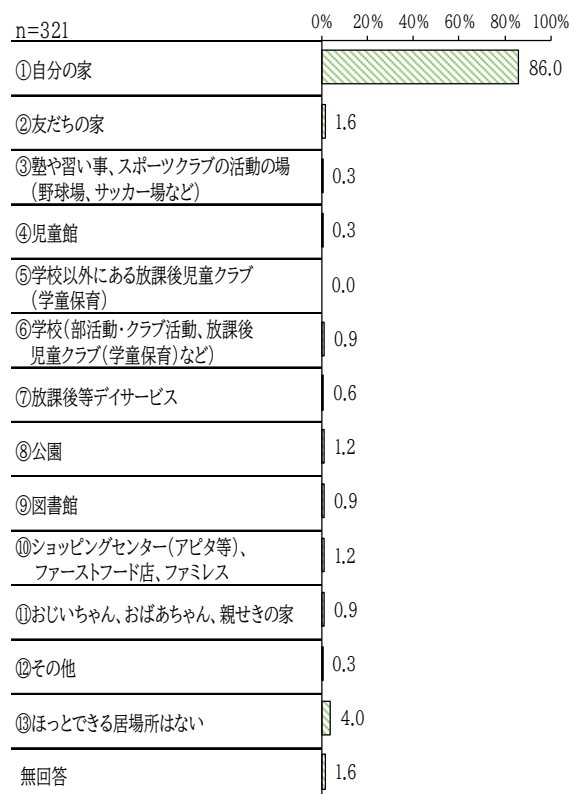
■ほっとできる居場所

- ほっとできる居場所は、「自分の家」が小学5年生で 82.1%、中学2年生で 86.0%を占め、次いでいずれも「友だちの家」が多くなっていますが、「ほっとできる場所はない」と答えた人は小学5年生で 2.4%、中学2年生で 4.0%でした。

【小学5年生】



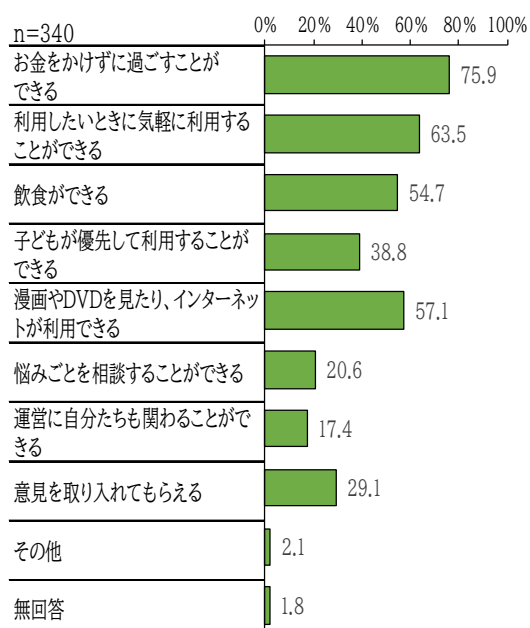
【中学2年生】



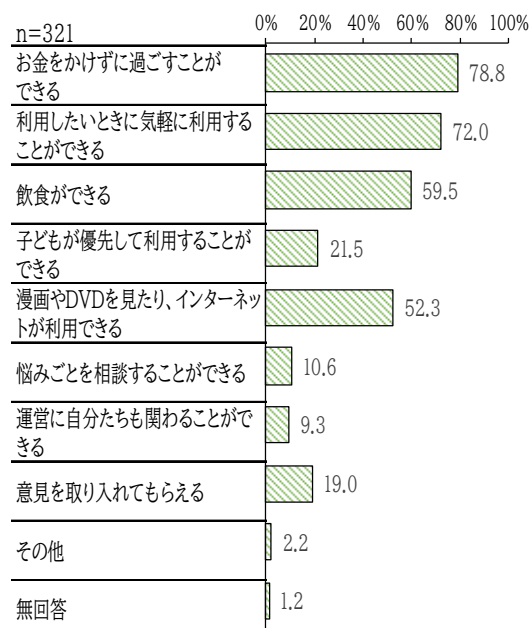
■あったらよいと思う場所に求める機能やサービス

- あったらよいと思う場所に対して求める機能やサービスは、小学5年生・中学2年生ともに「お金をかけずに過ごすことができる」「利用したいときに気軽に利用することができる」の順で多くなっています。

【小学5年生】



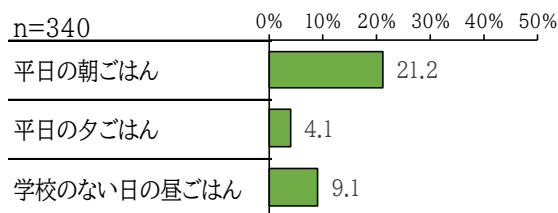
【中学2年生】



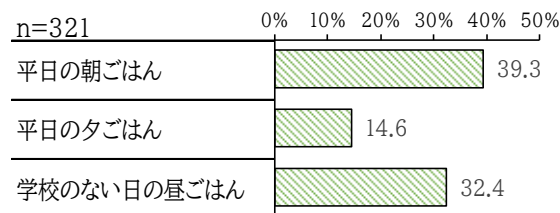
■ごはんを一緒に食べる人のうち一人で食べる人

- ごはんを「一人で食べる」と答えた割合は、小学5年生も中学2年生も平日の朝ごはんが多く、平日の夕ごはんについては小学5年生で 4.1%、中学2年生で 14.6%、学校のない日の昼ごはんについては小学5年生で 9.1%、中学2年生で 32.4%でした。

【小学5年生】

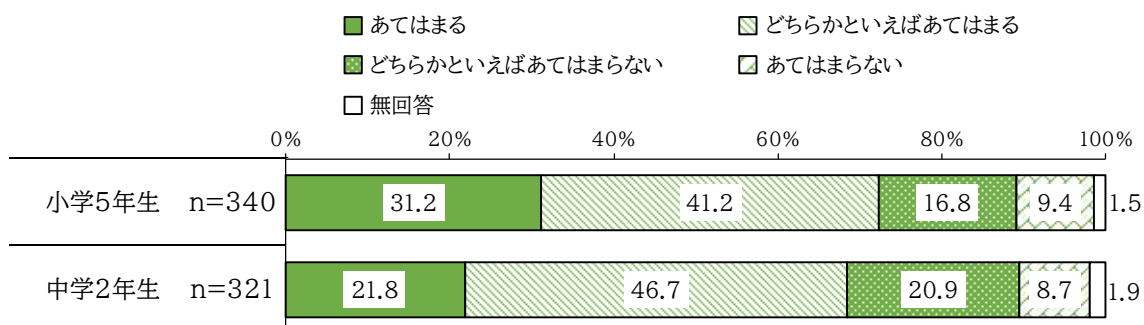


【中学2年生】



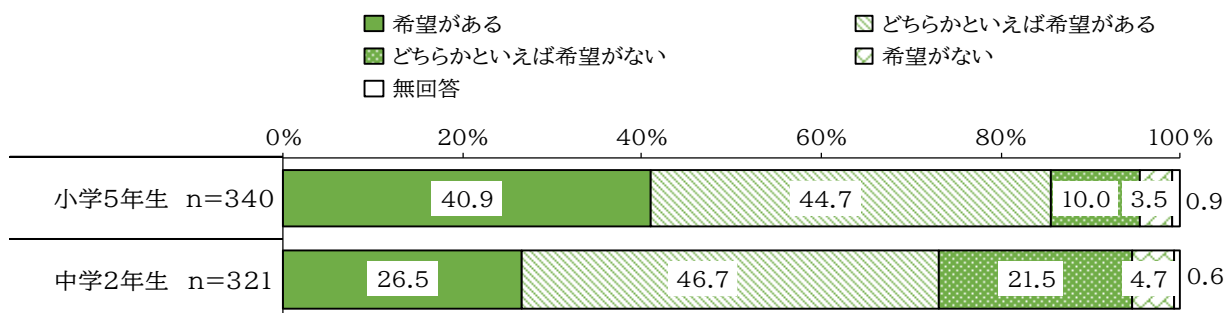
■今の自分が好きか

- 自分自身について“あてはまる”（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の計）と思う割合は、「今の自分が好きだ」では小学5年生で72.4%、中学2年生で68.5%でした。



■自分の将来について希望の有無

- 自分の将来について“希望がある”（「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」の計）と答えた小学5年生は85.6%、中学2年生は73.2%でした。一方、“希望がない”と答えた小学5年生は13.5%、中学2年生は26.2%でした。



P27

(4) 子育て世帯の生活実態調査

■困ったときの相談相手の有無

⇒項目の削除

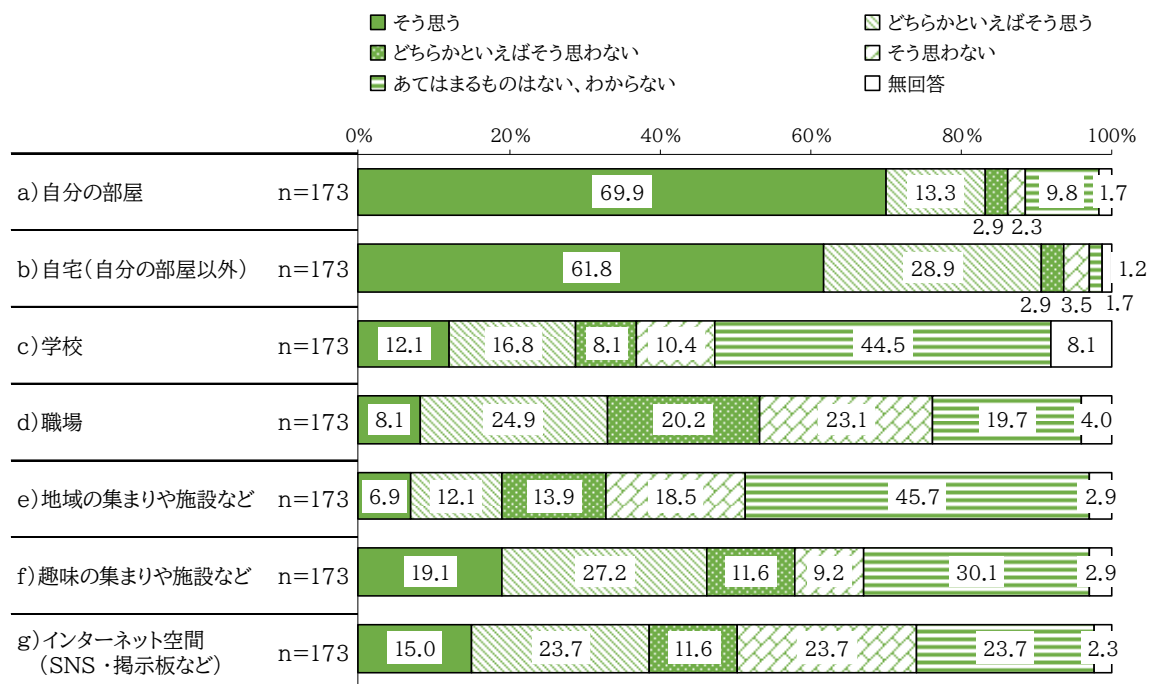
P28

(5) こども・若者調査

⇒以下のグラフの追加

■自分にとっての居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）

- 自分にとっての居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっていると思う割合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計）は、「自宅（自分の部屋以外）」で90.7%、「自分の部屋」で83.2%、「趣味の集まりや施設など」で46.3%、「インターネット空間」で38.7%でした。



P30

3 こども・若者の意見

(1) こども・若者のオンライン意見箱より

⇒文章を追加

こども・若者本人が自らの意見を投稿できるオンライン意見箱を開設し、意見聴取を実施。

〈令和6年8月30日までに集まった40件の意見から抜粋〉

P31

(2) 児童館でのインタビュー調査より

⇒文章を追加

市内3児童館にて児童館を利用しているこども本人にインタビュー調査を実施。

〈令和6年8月～9月に各館約10名程度からの意見を抜粋〉

P32

(3) アンケート調査より

⇒こども・若者の意見のみ掲載とする

P53、P54

5 東海市の課題

(2) 不安や困難を抱えるこども・若者への支援

⇒文章を追加

本市の就学援助率は県内において高いカテゴリーで推移し、虐待相談も増加傾向にあることから、こうした不安や困難を抱えるこども・若者にきめ細かな支援を行い、誰もが希望を持って生活を送ることができるよう支援していくことが必要です。

(3) こども・若者の視点に立った居場所づくり

⇒文章を追加

アンケート調査結果では小学校5年生の2.4%、中学校2年生の4%がほっとできる居場所はないと回答し、お金をかけずに過ごすことができる場所や、利用したいときに気軽に利用することができる場所、意見を取り入れてもらえる場所を求める意見が多くありました。こども・若者の意見が反映され、いつでも気軽に利用できる場所が地域の中に求められており、こうした居場所づくりに取り組むことが必要です。

⇒(4)として課題及び文章を追加

(4) 保育サービス等の担い手の育成・確保

第2期計画の評価では、保育園・幼稚園事業について、保育士等の不足により児童の受け入れを制限する施設がある状況がみられました。また、近年の女性の就業率の上昇等により、延長保育事業や放課後児童クラブ等に対するニーズが一層高まっていくことも見込まれます。

必要とする家庭に多様な支援をきめ細かに提供していくために、人材の育成・確保に向けた取り組みを行っていくことが必要です。